



金山町ゼロカーボンシティ宣言



～2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指す～

近年、地球温暖化に起因するといわれる気候変動の影響から、世界規模で深刻な気象災害が発生し、甚大な被害を与えています。金山町においても、平成30年8月のたび重なる豪雨は災害が発生させ、町民生活に大きな影響と脅威を与えました。

2015年に合意されたパリ協定では、「世界全体の平均気温上昇を産業革命前に比べて2℃より十分に低く抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追及する」ことが定められています。同年に採択された2030年にむけたSDGs「持続可能な開発目標」は、世界を大きく変革する道しるべとなっています。

2018年に公表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では、「二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされ、国は2020年10月に、2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを表明しました。

「金山町緑の憲章」に謳われておりますように、四季を彩り清らかな水や爽やかな空気をもたらす「ぶな」や「金山杉」をはじめとした森林資源の適正管理で効果を高め最上川の支川の最上流域に位置する「水清き町」を次代を担うこどもたちに引き継いでいくため、町民の皆さんと関係機関が一体となって、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し、積極的に取組みを進めることをここに宣言します。

2022年11月3日

金山町長
佐藤英司